

2027年3月期 第2四半期 連結決算概況

2026年11月10日

オリンパス株式会社|取締役 代表執行役 社長兼 CEO ボブ・ホワイト|執行役チーフファイナンシャルオフィサー マイケル・パレンティ

OLYMPUS

- オリンパス株式会社「2027年3月期　第2四半期決算説明会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。
- CEOのボブ・ホワイトでございます。本日は、CFOのマイケル・パレンティとともにご説明いたします。
- まず私から、第2四半期業績の概要、FDAとのエンゲージメントに関する最新の状況、そして戦略の進捗についてご説明します。
- その後、マイケルより、当四半期の業績と通期業績見通しについて詳しくご説明いたします。
- 最後に私から総括を申し上げた後、質疑応答に移りたいと思います。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。

- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。

- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。

- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

OLYMPUS

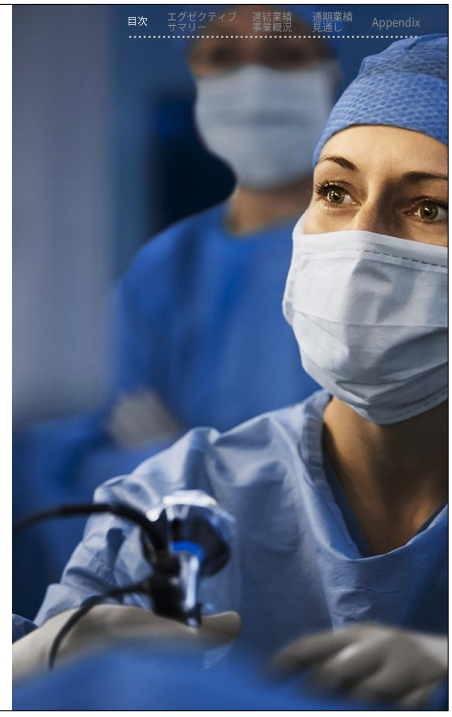
目次

01 エグゼクティブサマリー — CEO

02 2027年3月期 第2四半期 連結業績および
事業概況 — CFO

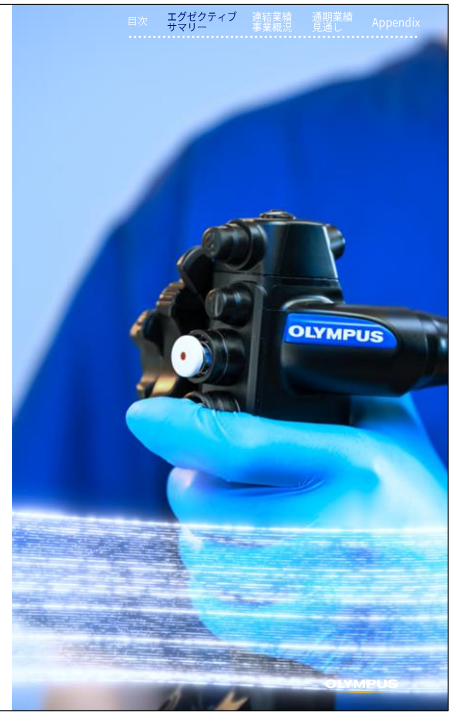
03 通期業績見通しに対する進捗— CEO / CFO

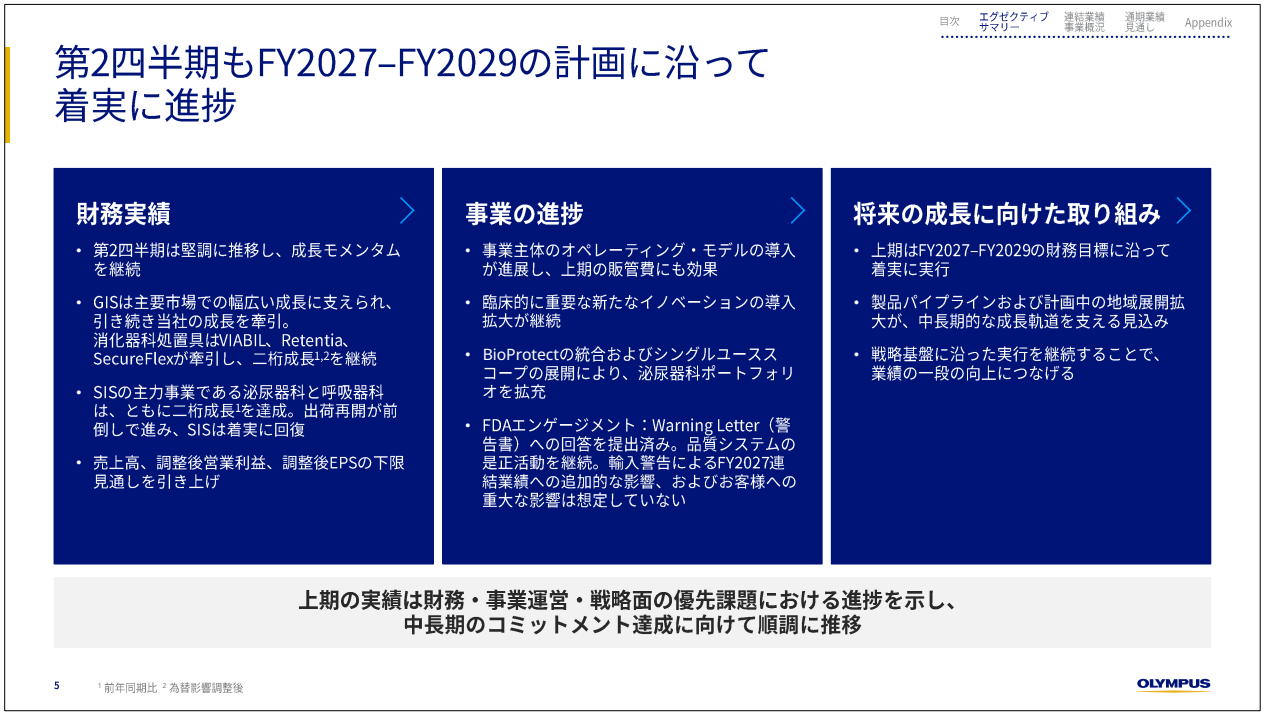
04 Appendix



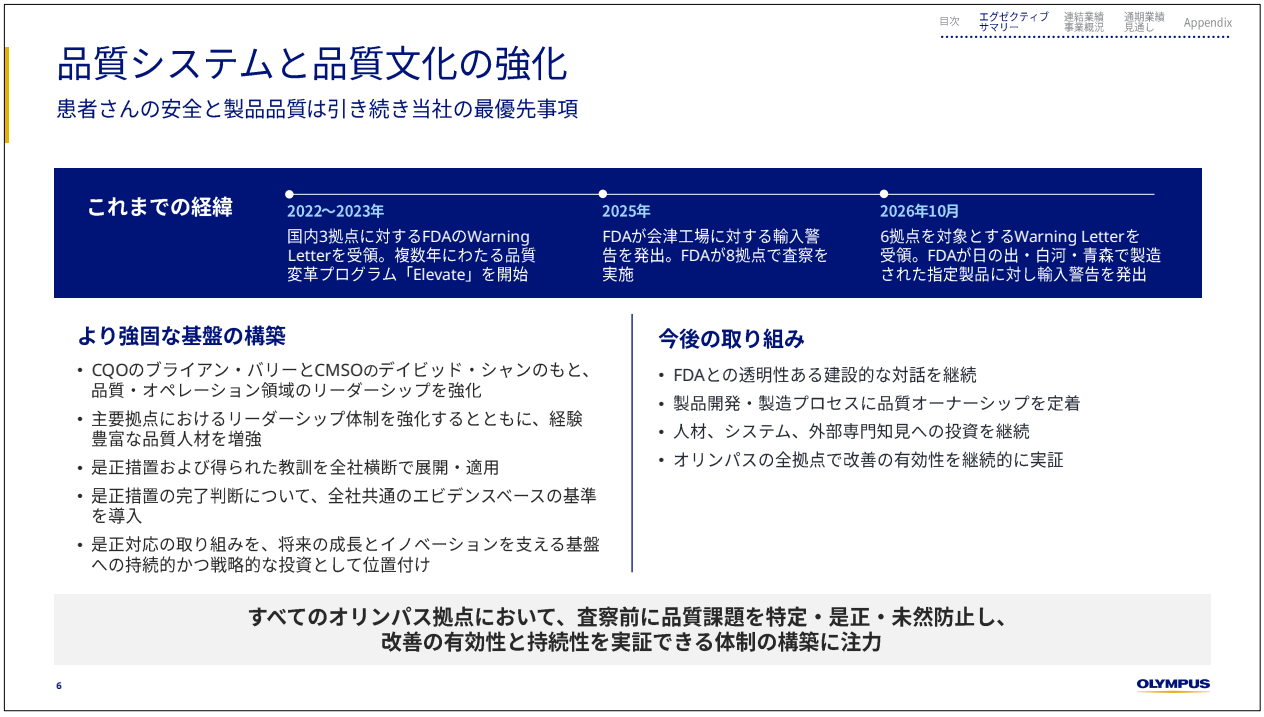
エグゼクティブサマリー

01





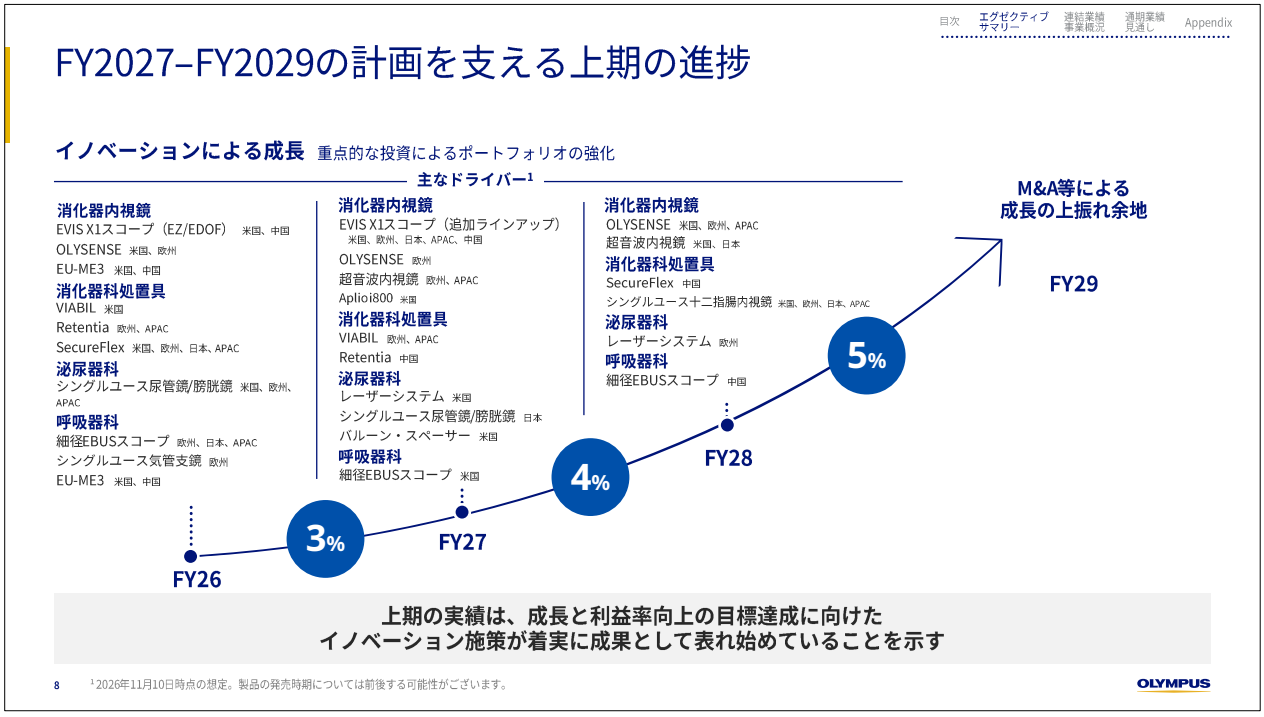
- それでは、2027年3月期第2四半期の業績の概要からご説明します。
- 第2四半期は、第1四半期の好調なスタートを土台に、さらに前進することができました。
- 戦略の実行により、事業全体で引き続き目に見える成果を生み出しています。
- 第2四半期も堅調な業績を達成しました。こうした進捗を踏まえ、売上高、調整後営業利益、調整後EPSの通期業績見通しについて、下限を引き上げることとしました。見通し引き上げの具体的な内容については、この後ご説明します。
- 当社の成長は、引き続き、オーガニックとインオーガニックの両面でのイノベーション、そして営業面での実行力の向上によって牽引されています。
- GISは、主要市場における幅広い成長に支えられ、引き続き当社の成長を牽引しました。消化器科処置具は、VIABIL、Retentia、SecureFlexが牽引し、二桁成長を継続しています。
- SISでは、主力事業である泌尿器科と呼吸器科がともに二桁成長を達成しました。底堅い需要に加え、出荷止めの影響を受けていた製品の出荷再開が前倒しで進んだことも、成長を後押ししました。
- 中国については、これまでもお伝えしてきたとおり成長軌道への回復は一定のペースでは進みませんが、当四半期は想定どおりの進捗となりました。
- また、事業面でも、着実な進捗がありました。
- 例えば、事業主体のオペレーティング・モデルの導入が順調に進捗し、その成果は上期の販管費にも表れています。
- また、臨床的に重要な新たなイノベーションの導入が引き続き進み、BioProtectとシングルユーススコープにより、泌尿器科のポートフォリオを拡充しました。
- 私たちは引き続き、一貫性のある確かな成果を出すことに注力しています。そして、本日ご報告する実績は、その取り組みが着実に前進していることを示しています。



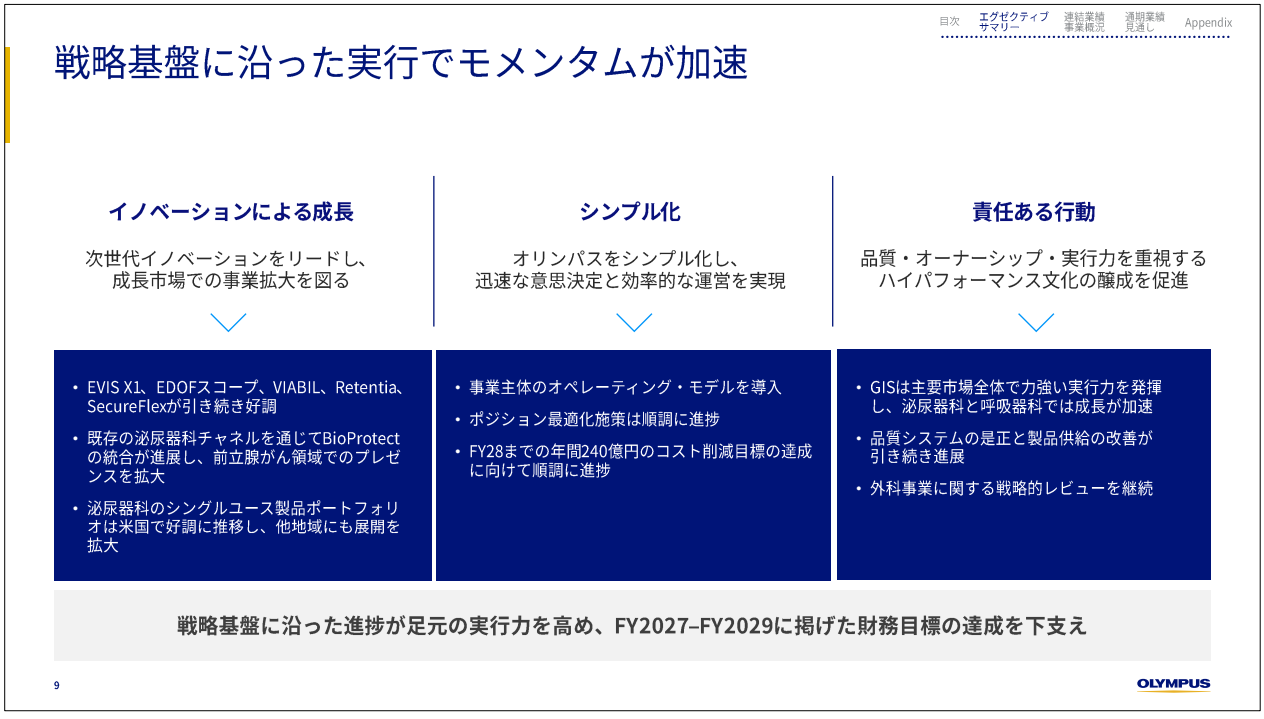
- 次に品質についてです。FDAが昨年秋に実施した査察の結果を受け、当社が1月以降進めてきた取り組みと、今後の見通しについて、具体的にお話ししたいと思います。
- まず明確にしておきたいのは、品質システムと品質文化の強化、そして患者さんの安全の確保が、私自身、経営陣、そして組織全体にとって最優先事項であるということです。
- 私たちは患者さんの安全に対する責任を非常に重く受け止めており、当社のシステムや製品に関するあらゆる課題に積極的に対処してまいります。
- FDAが10月に発出したWarning Letterについては、このLetterで示された結果は、FDAが昨年秋に実施した拠点の査察に関するものであることを強調しておきたいと思います。このLetterでは対応すべき課題が明確かつ具体的に示されていました。
- この約1年間にわたり、取り組みの強化、新たなリーダーシップ体制の構築、そして専門知識の組織への定着を進めてきた結果、FDAが懸念を示している領域への対応において、着実な進展が見られています。
- 一方で、このWarning Letterで示されたテーマ（項目）について、私たちはこれまでの取り組みをより確かなものとするとともに、FDAが求める、継続的な有効性を示す証拠を提供できるよう、今後の取り組みをさらに強化しています。
- この11か月間、私たちは数多くの取り組みを加速してきました。
- **第一に、品質およびオペレーションのリーダーシップを強化しました。**
- 品質とオペレーションを率いるため、持続的かつ変革的な改革を成功に導いてきた実績を持つ、経験豊富な業界の専門人材を新たに採用しました。
- デイビッド・シャンがグローバルオペレーションの責任者として4月に入社しました。製造、エンジニアリング、品質の分野で数十年の経験を有しています。
- また、8月には、チーフクオリティオフィサー（最高品質法規制責任者）としてブライアン・バリーが当社に加わり、品質・法規制対応を統括しています。彼は、品質システムと組織全体の品質文化を強化するという明確な使命を担っています。
- さらに、主要拠点のリーダーを交代するとともに、重要な機能領域においてFDA規制対応に関する専門知識を持つ人材を拡充し、その専門性を強化しました。
- こうした取り組みを通じて、品質に対する責任体制を強化してきました。今後もさらに強化するとともに、FDAの指摘事項に全拠点で一貫して対応するために必要な専門性と監督体制を各チームに提供していきます。
- **第二に、是正措置を「完了」とする基準を見直しました。**
- すべての是正措置は、3つの条件を満たさなければなりません。一つ目は実施されていること、二つ目はその裏付けとなる証拠が揃っていること、そして三つ目は長期にわたって有効性が持続していることが確認されていることです。



- 作業を終えただけでは、完了とはみなしません。
- これらの条件を適用することで、FDAが求めている、長期にわたって有効性が持続していることを示す証拠を提供していきます。
- **第三に、得られた教訓をオリンパス全体に展開しています。**
- ある拠点で課題が見つかった場合、同じ課題が他のどこで起こりうるかを検証し、必要に応じて横展開し、対策を講じます。
- 私たちは是正対応を通じて得た知見を活用し、個別的あるいは部分的な変更にとどまらない、全社的かつ構造的な改善を推進しています。また、日々継続的な品質向上を追求する考え方を組織全体に根付かせていきます。
- 私たちはこれらの取り組みを単なる是正対応ではなく、オリンパスの将来のイノベーションと成長を支える基盤への、持続的かつ戦略的な投資と捉えています。
- オリンパスが品質卓越性の追求は完了したと宣言することは決してありません。変化とイノベーションのスピードがそれを許さず、何よりも患者さんがそれを求めているからです。
- **第四に、責任の所在をより明確にしています。**
- 各プロセスを担当する技術・製造チームが、是正措置とその裏付けとなる証拠に責任を持ちます。そして、グローバルの品質の専門家がその証拠を厳しく検証します。
- さらに、経営陣のレビューでは、根拠となる記録と結果に焦点を当て、変更が機能しているかどうかを評価しています。
- これらは、品質と品質文化を強化するために当社が先手を打って実施している取り組みの一部です。
- 最後に申し上げたいのは、現在の取り組みが長期的にはより強固なオリンパスにつながるということです。このプロセスには時間がかかり、常に一定のペースで進むとは限らないことも認識しています。
- 品質向上に必要な投資は行いつつ、関連するコストを適切に管理し、売上成長と利益率改善というコミットメントを引き続き果たしてまいります。
- FDAが当社のWarning Letterへの回答を審査する、あるいはフォローアップの査察を実施するまでの期間を、当社がコントロールすることはできません。
- 懸念が解消されたかどうかを判断するのはFDAです。
- 一方で、当社がコントロールでき、最優先で取り組むべきことは、オリンパスのすべての拠点が品質課題を特定し、是正し、未然に防止できるようにすること、そして実施した改善が有効かつ持続的であることを客観的な証拠によって示すことに、引き続き注力することです。



- 続いて、第2四半期および上期の業績を、2025年11月に公表した2027年3月期から2029年3月期までの計画に照らして見ていきたいと思います。
- 「3-4-5%」の売上成長計画では、為替影響調整後の売上成長率として2027年3月期に約3%、2028年3月期に4%、2029年3月期に5%を目指しています。また、調整後営業利益率を毎年100bps超改善し、調整後EPSについては年平均10%超の成長を計画しています。
- 計画開始から2四半期が経過しましたが、上期の実績は、2027年3月期から2029年3月期の計画で示した成長軌道に沿って推移しています。
- 消化器内視鏡では、EVIS　X1のEDOFスコープの需要が引き続き堅調であり、今期は全主要地域でEVIS X1スコープのラインアップを拡充していきます。中国では、現地生産のEDOFスコープが浸透しつつあり、9月には現地生産スコープの追加機種についてNMPA（国家薬品監督管理局）の承認を取得し、現地化戦略をさらに前進させました。欧州では、インテリジェント内視鏡医療エコシステム「OLYSENSE」について、今期中に臨床ソリューションの追加を予定しており、展開を広げています。
- 消化器科処置具では、VIABILステントが米国で引き続き力強い成長を続けています。また、6月には欧州で販売を開始し、第3四半期には欧州での展開拡大を進めています。また、米国Centers for Medicare & Medicaid Services（CMS）が、新たな内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の診療報酬コードに対する償還価格を設定したことも喜ばしい進展でした。これらの新たなコードの導入により、より多くの患者さんがESDの恩恵を受けられるようになるための道筋が明確になったと考えています。
- 泌尿器科では、結石治療向け次世代レーザーシステムの限定的な販売を米国で開始しており、今後、より広範な展開を予定しています。また、2027年3月期中に、日本でシングルユース尿管鏡・膀胱鏡の発売を予定しています。
- 呼吸器科では、主な成長ドライバーの一つである細径EBUSスコープについて、米国でFDAの510(k)認可を取得しました。また、Endocision社のフレキシブル　クライオカテーテルシステムのグローバル独占販売契約を締結し、気管支鏡関連ポートフォリオをさらに拡充しました。
- このように、成長と利益率向上の目標達成に向けて進めているイノベーション施策が、着実に成果として表れ始めています。
- もちろん、3カ年計画はまだ始まったばかりであり、今後も取り組むべきことは多くあります。しかしながら、上期の実行状況を踏まえると、私たちは掲げた目標を達成できるという自信を深めています。



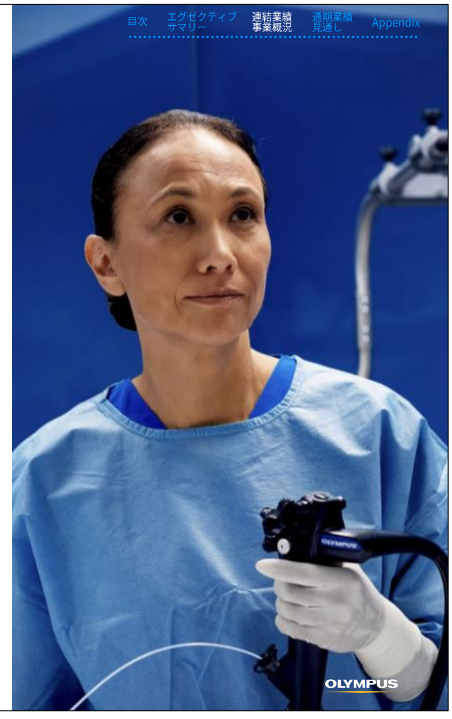
- それでは、当社が掲げる3つの戦略的基盤である「イノベーションによる成長」「シンプル化」「責任ある行動」の観点から、今四半期の進捗を詳しくご説明します。
- まず、「イノベーションによる成長」です。EVIS X1およびEDOFスコープの継続的な採用拡大に加え、VIABIL、Retentia、SecureFlexも引き続き好調に推移しています。さらに、BioProtectの統合が順調なスタートを切り、さらにシングルユース製品のポートフォリオ拡充も進んでいます。これらの取り組みにより、重点手技領域における当社のポジションは一段と強化されています。
- BioProtectは、オリンパスの一員となってから四半期が経過しました。泌尿器科の販売チャネルを通じた統合は、計画どおりに進んでいます。この買収により前立腺がん領域でのプレゼンスが拡大しており、今後数年にわたり、このビジネスは力強い二桁成長を実現すると見込んでいます。
- シングルユース尿管鏡・膀胱鏡のポートフォリオについても、特に米国市場において成長に貢献し続けています。2026年3月期第4四半期に米国、欧州、アジア・オセアニアで発売済みであり、今後さらなる地域展開を進めていきます。
- 続いて、「シンプル化」です。事業主体のオペレーティング・モデルはすでに導入されており、公表しているポジション最適化施策も実行しています。2028年3月期までに年間240億円のコスト削減効果を実現するという目標に向けて、順調に進捗しています。
- 私たちは引き続きオリンパスの事業運営をよりシンプルにする取り組みを進めており、その成果として業務効率の向上が着実に表れています。
- 最後に、「責任ある行動」です。当社では、業績マネジメントの強化、品質に対するオーナーシップの向上、そしてポートフォリオ規律の徹底を継続して進めています。
- 品質システムに関する取り組みについては先ほどご説明したとおりですが、製品供給の正常化についても、当四半期に前進がありました。
- また、外科事業に関する戦略的レビューは引き続き進めており、確定した内容があり次第、改めてご報告いたします。
- 全体として、足元の実行が2027年3月期から2029年3月期に掲げたコミットメントの達成を下支えしています。
- それではマイケルより、業績の詳細と、通期業績見通しの引き上げについてご説明いたします。

連結業績および事業概況

2027年3月期 第2四半期

02

10



- ボブ、ありがとうございます。皆様、本日はご参加いただき、ありがとうございます。
- 本日は、第2四半期業績の背景にある財務面の要因、業績の内訳を示すセグメント別の詳細、そしてそれらが通期見通しの枠組みにどう結びつくかについてご説明します。

2027年3月期 第2四半期実績ハイライト

ハイライト

第2四半期は堅調に推移し、成長モメンタムを継続。通期見通しの達成への確信を深める



- 売上高は2,692億円、前年同期比で9%成長（為替影響調整後で1%成長）
  GISの主要市場において堅調に推移
- 調整後営業利益率[1]は17.8%、為替の追い風もあり、前年同期比で
  2.8%pp増（為替影響調整後で0.2pp増）

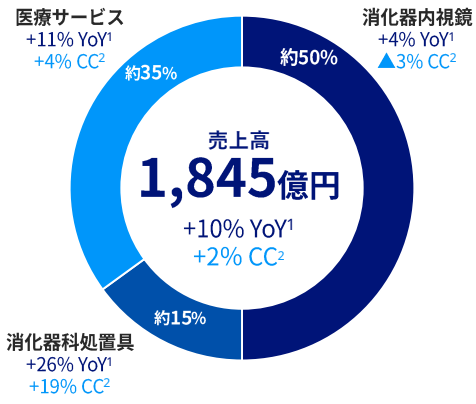
売上高	2,692億円	+9% YoY[2] +1% CC[3]
調整後営業利益率[1]	17.8%	+2.8pp YoY[2] +0.2pp CC[3]
調整後EPS[1]	32円	+38% YoY[2]
調整後FCF	144億円	▲69億円 YoY[2]

[1]「その他の収益」「その他の費用」および一時的な米国関税還付（約178億円。うち売上原価の減額約171億円、金融収益約7億円）を除く。調整後EPSは、これらの項目を税効果考慮後で除外。
[2]YoY = 前期比 [3]CC = ConstantCurrency（為替影響調整後）

OLYMPUS

- 連結売上高は2,692億円となり、前年同期比で9%、為替影響調整後で1%の増収となりました。GISの主要市場における幅広い成長が寄与しました。一方、主にSISにおける出荷止めや、既に公表している2025年6月のFDA関連の輸入警告により、約90億円の売上影響がありました。こうした逆風はあったものの、第2四半期の業績は堅調に推移しました。
- 利益の数値をご説明する前に、米国関税の還付金とその会計処理について具体的にご説明します。米国連邦最高裁判所の判決を受け、当社は2026年3月期に支払った関税の還付を申請しました。還付金の大部分は第2四半期に受領しており、合計で約178億円を計上しました。内訳は、売上原価の減少として約171億円、金融収益として約7億円です。この還付金は一時的な性質のもので、前期に関連するものであることから、調整後フリーキャッシュフローの取り扱いと同様に、調整後営業利益および調整後EPSから除外しています。特にお断りしない限り、本日ご説明する調整後の数値は、すべて還付金を除いたものです。
- その前提で、調整後営業利益率は17.8%となり、前年同期比で2.8ポイント、為替影響調整後で0.2ポイント改善しました。為替の追い風が寄与しています。
- 調整後EPSは32円となり、前年同期比で38%増加しました。
- 調整後フリーキャッシュフローは144億円となり、前年同期比で69億円減少しました。

上期のモメンタムを支えるGISの継続的な成長



Q2実績の主な要因	
消化器内視鏡	第2四半期は、為替の追い風により増収の一方、為替影響調整後では減収。欧州では増収となったものの、北米では前年同期の一時的な影響の反動と、案件の長期化の影響により減収。堅調なパイプラインに支えられ、上期では為替影響調整後で3%の増収を達成
消化器科処置具	VIABILステントの好調な業績と止血クリップ「Retentia」、超音波内視鏡検査用吸引生検針「SecureFlex」の継続的な成長により、二桁成長。中国以外の全ての地域で好調に推移
医療サービス	継続的なサービス契約による売上と堅調な事業運営により、北米、欧州、日本、アジア・オセアニアで成長。中国の減収により一部相殺

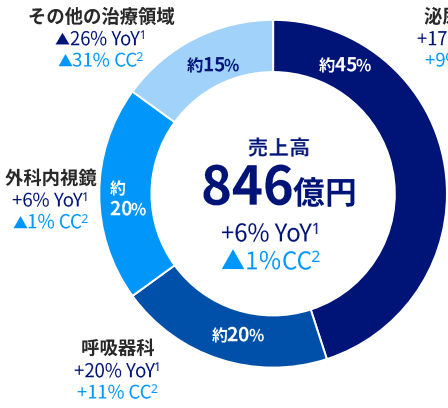
[1] YoY = 前期比 [2] CC = Constant Currency（為替影響調整後）

12

OLYMPUS

- 続いて、GISの業績の詳細についてご説明します。
- GISの売上高は1,845億円となり、前年同期比で10%、為替影響調整後で2%の増収となりました。GISの好調な流れは、前期の第4四半期から当期の上期を通じて継続しています。
- 消化器内視鏡のパイプラインは引き続き堅調であり、消化器科処置具は二桁成長を継続しました。GIS売上の80%超を占める北米、欧州、アジア・オセアニアは、引き続き好調に推移しました。中国では、営業活動の実行力向上により、減収幅が縮小しました。
- 消化器内視鏡の売上高は、為替影響調整後で3%の減収となりましたが、為替の追い風により前年同期比では4%の増収となりました。欧州では、特に英国での大型入札案件により増収となりました。一方、北米では前年同期の一時的な影響の反動と、案件の長期化により減収となりました。パイプラインは引き続き堅調であり、延期となった案件は下期にクロージングする見込みです。上期では、消化器内視鏡の売上高は前年同期比で12%、為替影響調整後で3%の成長となりました。
- 消化器科処置具の売上高は、前年同期比で26%、為替影響調整後で19%の増収となり、GISのサブセグメントの中で最も高い成長率となりました。北米が成長を牽引し、欧州およびアジア・オセアニアも力強く貢献しました。VIABILステントが好調に推移したことに加え、止血クリップ「Retentia」や超音波内視鏡検査用吸引生検針「SecureFlex」も引き続き成長しました。
- 医療サービスの売上高は、前年同期比で11%、為替影響調整後で4%の増収となりました。継続的なサービス契約による売上と堅調な事業運営により、北米、欧州、日本、アジア・オセアニアで成長しました。

製品供給の改善に伴い、SISの注力領域が引き続き成長



Q2実績の主な要因	
泌尿器科	SOLTIVE SuperPulsed Laser System、OES ELITE硬性膀胱鏡、シングルユース内視鏡、前立腺がん向けバルーン・スペーサーの売上が増加。北米と欧州が成長を牽引
呼吸器科	EBUS-TBNAで使われる超音波気管支鏡や一部機種の出荷止めが解除された気管支鏡が好調に推移。北米が成長を牽引
外科内視鏡	為替影響調整後では減収となった一方、為替の追い風により増収。為替影響調整後の減収幅は2四半期連続で縮小
その他の治療領域	サージカルデバイスにおける一部製品の出荷止めの影響が主因

[1] YoY = 前期比 [2] CC = Constant Currency（為替影響調整後）

13

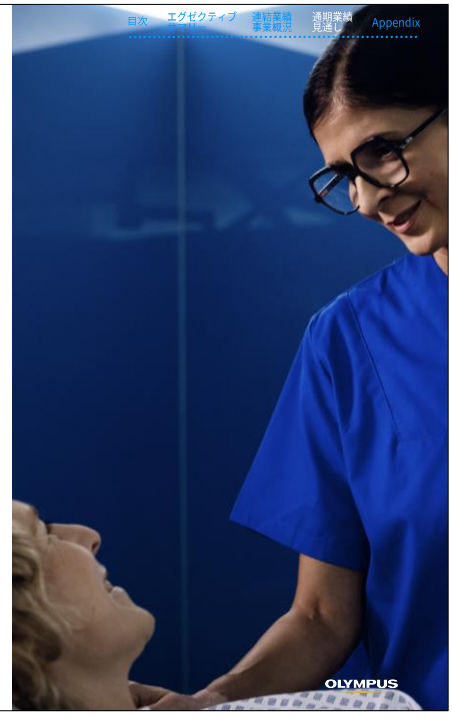
OLYMPUS

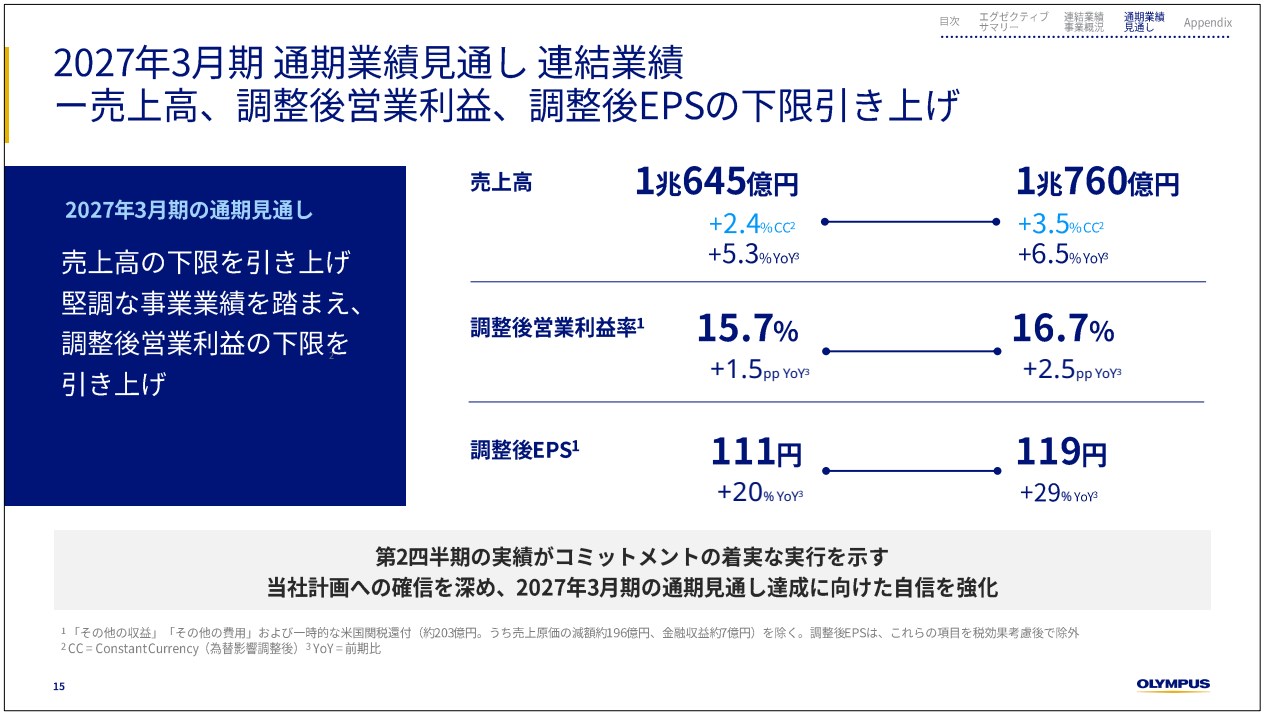
- 次に、SISについてご説明します。
- SISの売上高は846億円となり、為替影響調整後では1%の減収となりましたが、為替の追い風により前年同期比では6%の増収となりました。
- SISにおいて、出荷止めや既に公表している2025年6月のFDA関連の輸入警告による約90億円の売上影響があったものの、注力領域である泌尿器科と呼吸器科は引き続き力強い成長を遂げました。
- 第2四半期は、大半の気管支鏡の機種と一部のTHUNDERBEAT製品で出荷を再開し、想定を上回るペースで進捗しました。その結果、出荷止めの大部分が解消しています。
- 泌尿器科の売上高は、前年同期比で17%、為替影響調整後で9%の増収となりました。主に、SOLTIVE SuperPulsed Laser System 、OES ELITE 硬性膀胱鏡、シングルユース内視鏡、前立腺がん向けのバルーン・スペーサーが成長を牽引しました。地域別では、北米と欧州が成長を牽引しました。
- 呼吸器科の売上高は、前年同期比で20%、為替影響調整後で11%の増収となりました。超音波気管支鏡と、一部機種の出荷止めが解除された気管支鏡が成長を牽引しました。地域別では、北米が成長を牽引しました。
- 外科内視鏡の売上高は、為替影響調整後では1%の減収となりましたが、為替の追い風により前年同期比では6%の増収となりました。為替影響調整後の減収幅は、2四半期連続で縮小しています。
- その他の治療領域の売上高は、前年同期比で26%、為替影響調整後で31%の減収となりました。サージカルデバイスの一部製品における出荷止めの影響が引き続き残っています。

通期業績見通しに対する進捗

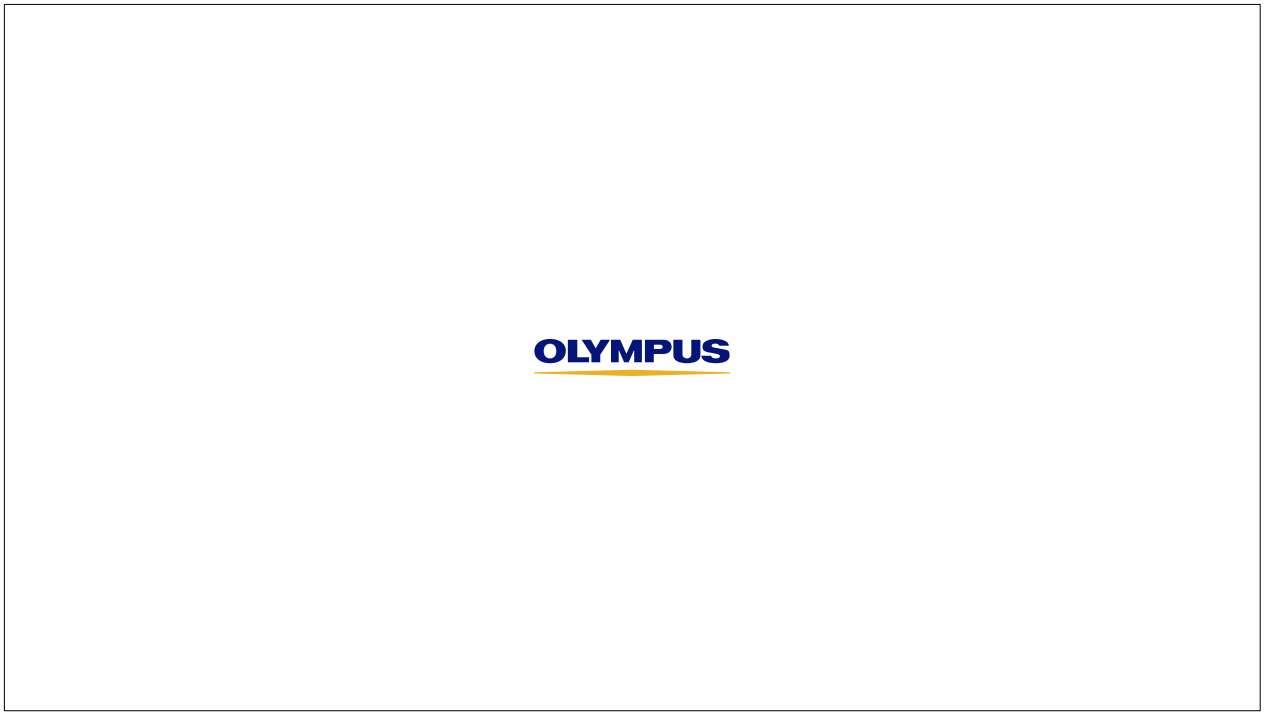
2027年3月期

03





- それでは、関税の還付金のポジティブな影響を除いた修正後の通期業績見通しについてご説明します。
- 上期は事業全体で堅調な業績を達成しました。出荷止めとなっていた製品の出荷再開に向けた取り組みも想定以上に早く進展しました。こうした状況は、通期見通しの達成に対する確信を一段と深めています。
- これらの要因を踏まえ、売上高の見通しの下限を1兆550億円から1兆645億円へ引き上げることが適切であると判断しました。これにより、為替影響調整後で2.4%～3.5%の成長を見込んでいます。
- 調整後営業利益率の見通しについても、15.2%～16.7%から15.7%～16.7%へ引き上げました。
- 調整後EPSの見通しについても、106円～119円から111円～119円へ引き上げました。
- ボブに戻す前に、少しお時間をいただき、当社の中期成長戦略に対する私の確信についてお話しさせてください。就任から7か月余りが経ち、各事業部の成長ストーリーを評価し、コスト改革の進展を確認するとともに、フリー・キャッシュ・フロー・コンバージョンの改善機会を見極めてまいりました。2027年3月期以降も、品質システムの是正と改善への取り組みを進めながら、引き続き効率化を推進し、利益率を高めていく機会があると考えています。昨年11月に公表した経営戦略、すなわち「3%-4%-5%」の売上成長（為替影響調整後）、毎年100 bps を上回る調整後営業利益率の改善、そして二桁台の力強い調整後EPS成長を実現できると、引き続き確信しています。
- 以上で私の説明を終わります。最後に、ボブより締めくくりのご挨拶を申し上げます。



- マイケル、ありがとうございました。
- 信頼は、四半期ごとの着実な成果の積み重ねによって築かれるものであると認識しています。下期の優先事項は明確です。品質システムの是正に向けたマイルストーンを着実に進めること、成長の勢いを維持すること、計画している生産性向上による削減効果を実現すること、そして計画全体にわたって規律ある実行を継続することです。
- 質疑応答に移る前に、お客様とその先の患者さんのために日々尽力している全従業員に、感謝の意を表したいと思います。
- それでは、これよりマイケルと私、そしてチーム一同で、皆さまからのご質問をお受けいたします。

Appendix

2027年3月期 第2四半期 連結業績概況

（単位：億円） ※EPS、調整後EPSを除く	FY26 Q2	FY27 Q2 還付影響額を除く	米国関税還付影響額	FY27 Q2	前期比 還付影響額を除く	為替影響調整後 還付影響額を除く
売上高	2,478	**2,692**		**2,692**	+9%	+1%
売上原価	865	**952**	▲171	**781**	+10%	+8%
売上原価率	*34.9%*	***35.4%***		***29.0%***	*+0.4pp*	*+2.5pp*
販管費	1,199	**1,261**		**1,261**	+5%	▲1%
販管費率	*48.4%*	***46.8%***		***46.8%***	*◢1.5pp*	*◢1.0pp*
持分法による投資損益	▲40	**1**		**1**	-	-
その他の収益および費用	▲78	**▲91**		**▲91**	-	-
営業利益	295	**389**	171	**560**	+32%	+1%
営業利益率	*11.9%*	***14.4%***		***20.8%***	*+2.5pp*	*0pp*
調整後営業利益[1]	374	**480**	171	**652**	+29%	+2%
調整後営業利益率	*15.1%*	***17.8%***		***24.2%***	*+2.8pp*	*+0.2pp*
税引前利益	279	**372**	178	**550**	+33%	
税引前利益率	*11.3%*	***13.8%***		***20.4%***	*+2.6pp*	
当期利益[2]	202	**203**	127	**330**	+1%	
EPS	18円	**19円**	12円	**31円**	+6%	
調整後EPS	23円	**32円**	12円	**44円**	+38%	

[1] 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 [2] 親会社の所有者に帰属する当期利益

2027年3月期 第2四半期累計 連結業績概況

（単位：億円） ※EPS、調整後EPSを除く	FY26 Q2累計	FY27 Q2累計 還付影響額を除く	米国関税還付影響額	FY27 Q2累計	前期比 還付影響額を除く	為替影響調整後 還付影響額を除く
売上高	4,544	**5,096**		**5,096**	+12%	+3%
売上原価	1,579	**1,788**	▲171	**1,616**	+13%	+7%
売上原価率	*34.8%*	***35.1%***		***31.7%***	*+0.3pp*	*+1.4pp*
販管費	2,421	**2,511**		**2,511**	+4%	▲4%
販管費率	*53.3%*	***49.3%***		***49.3%***	*◢4.0pp*	*◢3.4pp*
持分法による投資損益	▲38	**▲10**		**▲10**	-	-
その他の収益および費用	▲44	**▲109**		**▲109**	-	-
営業利益	461	**678**	171	**850**	+47%	+18%
営業利益率	*10.2%*	***13.3%***		***16.7%***	*+3.2pp*	*+1.5pp*
調整後営業利益[1]	506	**787**	171	**959**	+56%	+27%
調整後営業利益率	*11.1%*	***15.4%***		***18.8%***	*+4.3pp*	*+2.6pp*
税引前利益	448	**648**	178	**826**	+45%	
税引前利益率	*9.9%*	***12.7%***		***16.2%***	*+2.9pp*	
当期利益[2]	292	**394**	127	**521**	+35%	
EPS	26円	**37円**	12円	**49円**	+42%	
調整後EPS	32円	**52円**	12円	**64円**	+63%	

[1]営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 [2]親会社の所有者に帰属する当期利益

2027年3月期 第2四半期 セグメント別概況

（単位：億円）		FY26 Q2	FY27 Q2 還付影響額除く	米国関税還付影響額	FY27 Q2	前期比 還付影響額除く	為替影響調整後 還付影響額除く
消化器内視鏡ソリューション	売上高	1,680	**1,845**		**1,845**	+10%	+2%
	営業利益	353	**487**	114	**601**	+38%	+15%
	営業利益率	*21.0%*	***26.4%***		***32.6%***	*+5.4pp*	*+2.6pp*
	調整後営業利益[1]	381	**511**	114	**625**	+34%	+12%
	調整後営業利益率	*22.7%*	***27.7%***		***33.9%***	*+5.0pp*	*+2.2pp*
サージカルインターベンション	売上高	798	**846**		**846**	+6%	▲1%
	営業損益	▲23	**▲1**	57	**56**	-	-
	営業利益率	-	*-*		***6.6%***	-	-
	調整後営業利益[1]	17	**30**	57	**87**	+79%	▲32%
	調整後営業利益率	*2.1%*	***3.5%***		***10.3%***	*+1.4pp*	*▲0.7pp*
全社・消去[2]	売上高	0	**0**		**0**	-	-
	営業損益	▲34	**▲97**		**▲97**	-	-
連結合計	売上高	2,478	**2,692**		**2,692**	+9%	+1%
	営業利益	295	**389**	171	**560**	+32%	+1%
	営業利益率	*11.9%*	***14.4%***		***20.8%***	*+2.5pp*	*0pp*
	調整後営業利益[1]	374	**480**	171	**652**	+29%	+2%
	調整後営業利益率	*15.1%*	***17.8%***		***24.2%***	*+2.8pp*	*+0.2pp*

[1] 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 [2] 2027年3月期より新規事業に関する研究開発や探索活動が事業セグメントの定義を満たさなくなったため、従来「その他」の区分に計上していた金額を「全社・消去」の区分に計上しております。この変更に伴い、FY26 Q2の値も変更後の区分に組み替えて表示しています

OLYMPUS

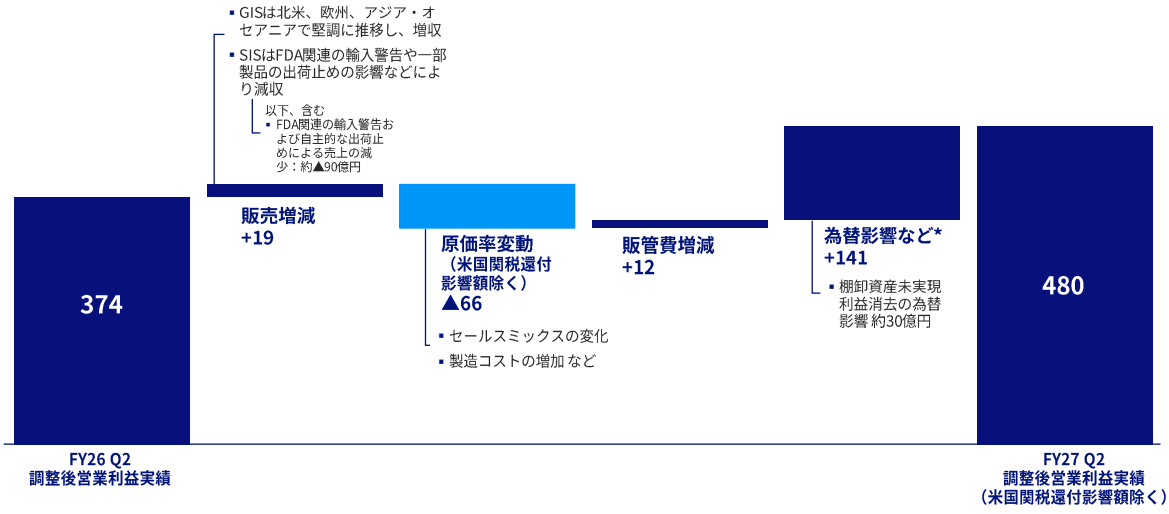
2027年3月期 第2四半期累計 セグメント別概況

（単位：億円）		FY26 Q2累計	FY27 Q2累計 還付影響額除く	米国関税還付影響額	FY27 Q2累計	前期比 還付影響額除く	為替影響調整後 還付影響額除く
消化器内視鏡ソリューション	売上高	3,070	**3,530**		**3,530**	+15%	+6%
	営業利益	534	**874**	114	**988**	+63%	+38%
	営業利益率	*17.4%*	***24.8%***		***28.0%***	*+7.3pp*	*+5.4pp*
	調整後営業利益[1]	582	**904**	114	**1,018**	+55%	+32%
	調整後営業利益率	*19.0%*	***25.6%***		***28.8%***	*+6.6pp*	*+4.7pp*
サージカルインターベンション	売上高	1,472	**1,566**		**1,566**	+6%	▲2%
	営業損益	▲42	**▲25**	57	**32**	-	-
	営業利益率	-	**-**		***2.0%***	-	-
	調整後営業利益[1]	4	**9**	57	**66**	+159%	▲337%
	調整後営業利益率	*0.2%*	***0.6%***		***4.2%***	*+0.4pp*	-
全社・消去[2]	売上高	1	**1**		**1**	-	-
	営業損益	▲31	**▲170**		**▲170**	-	-
連結合計	売上高	4,544	**5,096**		**5,096**	+12%	+3%
	営業利益	461	**678**	171	**850**	+47%	+18%
	営業利益率	*10.2%*	***13.3%***		***16.7%***	*+3.2pp*	*+1.5pp*
	調整後営業利益[1]	506	**787**	171	**959**	+56%	+27%
	調整後営業利益率	*11.1%*	***15.4%***		***18.8%***	*+4.3pp*	*+2.6pp*

[1] 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 [2] 2027年3月期より新規事業に関する研究開発や探索活動が事業セグメントの定義を満たさなくなったため、従来「その他」の区分に計上していた金額を「全社・消去」の区分に計上しております。この変更に伴い、FY26 Q2累計の値も変更後の区分に組み替えて表示しています

OLYMPUS

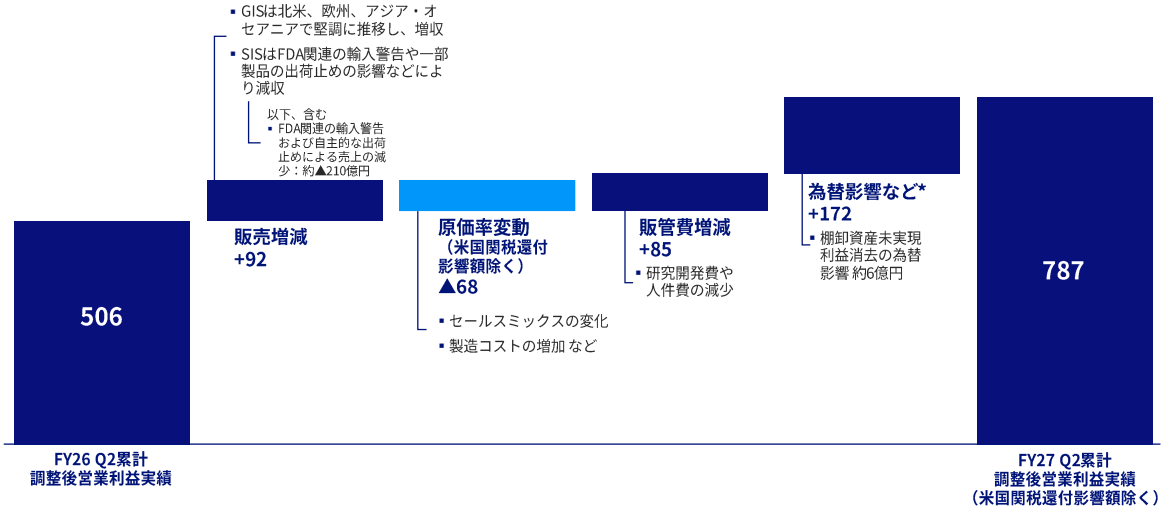
2027年3月期 第2四半期 連結調整後営業利益増減要因



（単位：億円）*「持分法による投資損益」が含まれています

OLYMPUS

2027年3月期 第2四半期累計 連結調整後営業利益増減要因



（単位：億円）*「持分法による投資損益」が含まれています

OLYMPUS

プロダクトパイプライン：消化器内視鏡ソリューション事業
（2026年11月10日時点）

現在の主力製品

消化器内視鏡
- EVIS X1システム・スコープ
- EVIS EXERA IIIシステム・スコープ
- EVIS LUCERA ELITEシステム・スコープ
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3
- 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS


EVIS X1システム


内視鏡用超音波観測装置EU-ME3


超音波画像診断装置 Aplio i800 EUS

消化器科処置具
- ERCP（ガイドワイヤ）
- ESD&EMR（ESDナイフ）
- サンプリング（スネア、生検鉗子）
- 止血（止血クリップ、止血関連ソリューション）
- EUS（超音波内視鏡検査用吸引生検針）


ガイドワイヤ


ESDナイフ

FY2026発売の主な製品

消化器内視鏡
- EVIS X1 EDOF上部消化管用ビデオスコープ（米国、中国）
- EVIS X1 EDOF下部消化管用ビデオスコープ（米国）
- OLYSENSE[1] CAD/AI（米国、欧州）
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3（米国、中国）

消化器科処置具
- 止血クリップRetentia（欧州、アジア・オセアニア）
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針SecureFlex（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）
- 大腸内視鏡先端アタッチメントEndoCuff Vision（日本）
- ディスポーザブル回収ネット（欧州）
- 高周波スネア（欧州）
- 胆管用メタリックステントVIABIL（米国）

FY2027発売および発売予定の主な製品

消化器内視鏡
- EVIS X1 EDOF下部消化管用ビデオスコープ（中国）
- EVIS X1スコープ（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）
- OLYSENSE Asset Care（欧州）
- OLYSENSE Computer-Aided Metrics（欧州）
- 新超音波内視鏡（欧州、アジア・オセアニア）
- 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS（米国）

消化器科処置具
- 止血クリップRetentia（中国）
- 胆管用メタリックステントVIABIL（欧州、アジア・オセアニア）

FY2028以降発売予定の主な製品

消化器内視鏡
- EVIS X1スコープ
- 新超音波内視鏡（米国、日本）
- OLYSENSE CAD/AI（アジア・オセアニア）
- OLYSENSE Report（欧州）
- OLYSENSE Computer-Aided Metrics（米国）
- OLYSENSE Insights

消化器科処置具
- 止血関連ソリューションEndoClot（中国、アジア・オセアニア）
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針SecureFlex（中国）
- 新止血クリップ
- 胆管用プラスチックステント
- シングルユース十二指腸内視鏡（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）
- 粘膜下層局注剤（米国、中国、アジア・オセアニア）

[1] OLYSENSEはオリンパス株式会社および/またはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します
（注）医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
（注）本資料に掲載されている製品は、指定された地域内の全ての国で販売されるとは限りません

プロダクトパイプライン：サージカルインターベンション事業
（2026年11月10日時点）

現在の主力製品

泌尿器科
- レゼクト電極、ESG-410
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System


レゼクト電極、ESG-410


SOLTIVE SuperPulsed Laser System

呼吸器科
- EVIS X1気管支鏡
- シングルユース気管支鏡
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ディスポーザブル吸引生検針
- スパイレーションバルブシステム
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3


EVIS X1 気管支鏡


吸引生検針

外科内視鏡
- VISERA ELITE III


VISERA ELITE III

FY2026発売の主な製品

泌尿器科
- シングルユース尿管鏡/膀胱鏡（米国、欧州、アジア・オセアニア）
- ツリウムファイバーレーザー装置SOLTIVE SuperPulsed Laser System（日本）
- VISERA S（米国）
- OES ELITE 硬性膀胱鏡（欧州、アジア・オセアニア）

呼吸器科
- 細径EBUSスコープ（欧州、日本、アジア・オセアニア）
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3（米国、中国）
- シングルユース気管支鏡（欧州）

外科内視鏡
- VISERA ELITE III（米国、中国）

FY2027発売および発売予定の主な製品

泌尿器科
- シングルユース尿管鏡/膀胱鏡（日本）
- 4Kカメラヘッド（米国、中国）
- OES ELITE 硬性膀胱鏡（米国、日本）
- レーザーシステム（米国）
- BioProtect社製品バルーン・スペーサー（米国）

呼吸器科
- EVIS X1 気管支鏡（米国）
- 細径EBUSスコープ（米国）

外科内視鏡
- ENDOEYEビデオ腹腔鏡（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）

FY2028以降発売予定の主な製品

泌尿器科
- レーザーシステム（欧州）
- VISERA S（中国）
- OES ELITE硬性膀胱鏡（中国）

呼吸器科
- EVIS X1 気管支鏡（中国）
- 細径EBUSスコープ（中国）
- クライオシジョンクライオカテーテルシステム（米国、欧州）

外科内視鏡
- 次世代外科内視鏡システム

（注）医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
（注）本資料に掲載されている製品は、指定された地域内の全ての国で販売されるとは限りません

OLYMPUS

2027年3月期 第2四半期累計 連結調整後営業利益

☑調整後営業利益は、営業利益から「その他の収益・その他の費用」を差し引いた数値を記載

（単位：億円）	FY26 Q2累計	FY27 Q2累計
営業利益	461	**678**[1]
①調整項目：その他の収益	74	**16**
主な収益科目	▪株式会社エビデントとのライセンス使用許諾等に関する合意に基づく対価 60（全社・消去）	
②調整項目：その他の費用	▲118	**▲125**
主な費用科目	▪品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」に係る一時的な費用 ▲54（GIS、SIS） ▪開発資産の減損損失 ▲21（SIS）	▪グローバルレベルで組織体制を変革し、人員数の最適化を図るための施策の実施に伴う費用 ▲30（GIS、SIS、全社・消去） ▪事業ポートフォリオの最適化のために実施している戦略的レビューに関連する費用 ▲24（全社・消去） ▪コンプレイント対応、医療機器報告（MDR）、プロセス及び設計の検証等の改善活動費用 ▲13（GIS、SIS） ▪事業戦略の見直しに伴う損失及びその他関連損失 ▲28（GIS、SIS）
調整後営業利益	506	**787**[1]

[1] 一時的な米国関税還付171億円を除く

OLYMPUS

連結財政状態計算書

1 総資産は減少。現預金、営業債権及びその他の債権が減少し、 BioProtect社の買収によりのれんが増加
2 社債及び借入金による資金調達を主要因に、負債は増加
3 自己株式の取得や配当金の支払を主要因に、資本は減少

（単位：億円）	2026年3月末	2026年9月末	増減額
流動資産	7,063	**6,527**	▲536
現金及び現金同等物	1,880	1 **1,577**	▲303
営業債権及びその他の債権	2,368	1 **2,068**	▲300
棚卸資産	2,071	**2,171**	+100
非流動資産	8,309	**8,692**	+384
有形固定資産	2,872	**2,906**	+34
無形資産	1,010	**1,149**	+139
のれん	1,942	1 **2,221**	+279
資産 合計	15,372	1 **15,219**	▲153

	2026年3月末	2026年9月末	増減額
流動負債	4,369	**3,917**	▲452
営業債務及びその他の債務	806	**545**	▲262
社債及び借入金	799	2 **901**	+102
その他の流動負債など[1]	2,764	**2,471**	▲292
非流動負債	2,882	**3,748**	+865
社債及び借入金	1,597	2 **2,464**	+867
資本	8,120	3 **7,554**	▲566
自己資本比率	52.8%	**49.6%**	▲3.2pp
負債および資本合計	15,372	**15,219**	▲153

[1]連結財政状態計算書の勘定科目である、その他の金融負債、未払法人所得税、引当金、その他の流動負債を含みます

連結キャッシュフロー計算書

1 FCF：米国関税の還付金178億円を含む税引前利益の増加の一方、BioProtect社の買収を主要因に、FCFは219億円のマイナス。特殊要因を考慮した調整後FCF[1]は236億円のプラス
2 財務CF：社債及び借入金による資金調達の実施（966億円）を、自己株式の取得による支出（600億円）、配当金の支払（330億円）、リース負債の返済（115億円）による支出で相殺し、79億円のマイナス

（単位：億円）	FY26 Q2累計		FY27 Q2累計	増減
税引前利益	448		**826**	+378
営業キャッシュフロー（営業CF）	211		**623**	+413
投資キャッシュフロー（投資CF）	▲504		**▲842**	▲339
フリーキャッシュフロー（FCF）	▲293	1	**▲219**	+74
調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	**38**		**236**	+198
財務キャッシュフロー（財務CF）	▲777	2	**▲79**	+697
現金および現金同等物期末残高	1,472		**1,577**	+105

FY26 Q2累計の主な特殊要因

営業CF：科学事業の譲渡に関連した税金の支払（海外・日本）	▲280億円
投資CF：SwanEndoSurgical, Incに対する出資など	▲49億円

FY27 Q2累計の主な特殊要因

営業CF：米国関税の還付金	178億円
営業CF：グローバルレベルで組織体制を変革し、人員数の最適化を図るための施策の実施に関する支出	▲174億円
投資CF：BioProtect社の株式の取得、SwanEndoSurgical, Incに対する出資など	▲460億円

[1]「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」など特殊要因を調整

OLYMPUS

2027年3月期 通期業績見通し 連結業績

（単位：億円） ※EPS、調整後EPSを除く	FY26通期	FY27通期見通し 還付影響額除く	米国関税還付影響額	FY27通期見通し	前期比 還付影響額除く	為替影響調整後 還付影響額除く
売上高	10,107	**10,645～10,760**		**10,645～10,760**	+5.3%～+6.5%	+2.4%～+3.5%
売上原価	3,566	**3,690～3,705**	▲196	**3,490～3,510**	+3.5%～+3.9%	+3.1%～+3.5%
売上原価率	*35.3%*	***34.3%～34.8%***		***32.5%～33.0%***	*◢1.0pp～◢0.5pp*	*◢0.1%～+0.4pp*
販管費	5,071	**5,195～5,200**		**5,195～5,200**	+2.4%～+2.5%	▲0.1%～0%
販管費率	*50.2%*	***48.3%～48.8%***		***48.3%～48.8%***	*◢1.8pp～◢1.4pp*	*◢1.7pp～◢1.2pp*
その他の収益および費用など	▲499	**▲390**		**▲390**	-	-
営業利益	971	**1,355～1,480**	196	**1,550～1,675**	+39.5%～+52.4%	+22.1%～+34.8%
営業利益率	*9.6%*	***12.7%～13.8%***		***14.6%～15.6%***	*+3.1pp～+4.1pp*	*+1.9pp～+2.9pp*
調整後営業利益[1]	1,433	**1,670～1,795**	196	**1,865～1,990**	+16.5%～+25.3%	+5.7%～+14.3%
調整後営業利益率	*14.2%*	***15.7%～16.7%***		***17.5%～18.5%***	*+1.5pp～+2.5pp*	*+0.5pp～+1.5pp*
当期利益[2]	682	**900～985**	135	**1,035～1,120**	+32.0%～+44.5%	
EPS	61円	**84円～92円**	13円	**97円～105円**	+38%～+51%	
調整後EPS	92円	**111円～119円**	13円	**124円～133円**	+20%～+29%	

2027年3月期配当
年間配当30円を予定

[1]営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 [2]親会社の所有者に帰属する当期利益

OLYMPUS

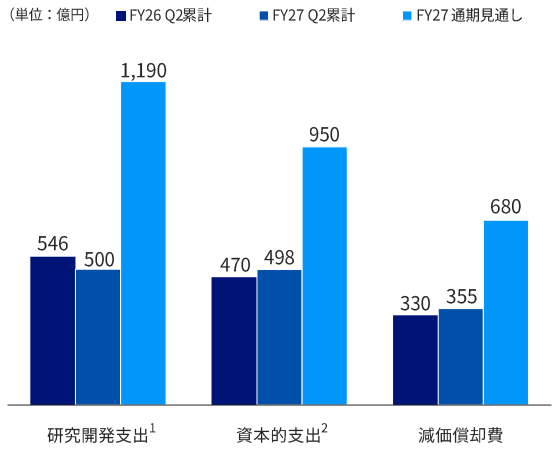
2027年3月期 通期業績見通し セグメント別業績

（単位：億円）		FY26 通期	FY27通期見通し 還付影響額除く	米国関税還付影響額	FY27 通期見通し	前期比 還付影響額除く	為替影響調整後 還付影響額除く
消化器内視鏡ソリューション	売上高	6,974	7,440～7,490		7,440～7,490	+6.7%～+7.4%	+3.7%～+4.5%
	営業利益	1,364	1,730～1,790	130	1,860～1,920	+26.9%～+31.3%	+17.0%～+21.5%
	営業利益率	*19.6%*	***23.3%～23.9%***		***25.0%～25.6%***	*+3.7pp～+4.3pp*	*+2.5pp～+3.2pp*
	調整後営業利益[1]	1,644	1,820～1,880	130	1,950～2,010	+10.7%～+14.4%	+2.5%～+6.2%
	調整後営業利益率	*23.6%*	***24.5%～25.1%***		***26.2%～26.8%***	*+0.9pp～+1.5pp*	*▲0.3pp～+0.4pp*
サージカルインターベンション	売上高	3,131	3,205～3,270		3,205～3,270	+2.4%～+4.4%	▲0.6%～+1.4%
	営業損益	▲150	5～70	65	70～135	-	-
	営業利益率	-	***0.2%～2.1%***		***2.2%～4.1%***	-	-
	調整後営業利益[1]	8	110～175	65	175～240	+1,258.4%～+2,061.1%	+900.3%～+1,665.9%
	調整後営業利益率	*0.3%*	***3.4%～5.4%***		***5.5%～7.3%***	*+3.2pp～+5.1pp*	*+2.3pp～+4.2pp*
全社・消去[2]	売上高	2	-		-	-	-
	営業損益	▲243	▲380		▲380	-	-
連結合計	売上高	10,107	10,645～10,760		10,645～10,760	+5.3%～+6.5%	+2.4%～+3.5%
	営業利益	971	1,355～1,480	196	1,550～1,675	+39.5%～+52.4%	+22.1%～+34.8%
	営業利益率	*9.6%*	***12.7%～13.8%***		***14.6%～15.6%***	*+3.1pp～+4.1pp*	*+1.9pp～+2.9pp*
	調整後営業利益[1]	1,433	1,670～1,795	196	1,865～1,990	+16.5%～+25.3%	+5.7%～+14.3%
	調整後営業利益率	*14.2%*	***15.7%～16.7%***		***17.5%～18.5%***	*+1.5pp～+2.5pp*	*+0.5pp～+1.5pp*

[1] 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 [2] 2027年3月期より新規事業に関する研究開発や探索活動が事業セグメントの定義を満たさなくなったため、従来「その他」の区分に計上していた金額を「全社・消去」の区分に計上しております。この変更に伴い、FY26通期の値も変更後の区分に組み替えて表示しています

OLYMPUS

投資実績推移および2027年3月期 通期見通し



（単位：億円）	FY26 Q2累計	FY27 Q2累計	FY27 通期見通し
研究開発支出[1] (a)	546	**500**	1,190
開発費資産化 (b)	94	**105**	250
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	452	**395**	940

（単位：億円）	FY26 Q2累計	FY27 Q2累計
償却費	42	**42**
	2026年6月末	**2026年9月末**
開発資産残高	747	**769**

[1] 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
[2] 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。
（FY26 Q2累計：58億円、FY27Q2累計：102億円、FY27通期見通し：130億円）

OLYMPUS

為替レート及び為替感応度

為替

（単位：円）	FY26 Q1	FY26 Q2	FY27 Q1	FY27 Q2	FY27 見通し
円／ドル	144.59	147.48	159.49	**159.25**	155
円／ユーロ	163.80	172.32	185.39	**183.32**	181
円／人民元	19.99	20.6	23.43	**23.61**	22.5

為替感応度（年間）

（単位：億円）	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	29	5
ユーロ（1円あたり）	17	5
人民元（1円あたり）	39	17

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています。また、為替感応度（年間）はFY26Q4実績より算出しています

略語集

略語	英語	日本語
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
EMR	Endoscopic Mucosal Resection	内視鏡的粘膜切除術
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡的粘膜下層剥離術
EUS	Endoscopic Ultrasound	超音波内視鏡